



芽が出て、葉が出て、花が咲く！



第1学年

文林学芸発表会⑤

引き続き、みなさんの作文です。お互いにどんなことを感じ、考えたのか、文章を読んで知りましょう。

発表会。それは誰もが通るもの。好きな人もいるし、そうでない人もいる。しかし協力をしなければよいものにはならない。でも、僕は正直面倒くさかった。展示に発表に合唱などを、少人数で行わなければならない。ため息しか出なかった。やるべきことはやっていたが、よい作品ではないことは自分でもわかっていた。合唱の練習が多くなってきて、中心となって頑張っている人がいた。そのことで自分もやる気を出したが、心根は変わらないままだった。ある日、僕は部活が終わって帰ろうと靴を履き替えていると、下駄箱にまだ色とりどりの靴があることに気がついた。そして1年生の教室付近はまだ電気がついていて、行ってみるととても少なかったが、居残って準備をしている人がいた。そこで自分の間違いに気がついた。僕は自分のことしか考えず、周りのことを見ていなかったことに。

次の日から自分は毎日居残るようになった。すると今まで以上に仕事が増えて忙しくなったけれど、嫌ではなかった。するといつの間にか残って手伝ってくれる人が増えていった。自分もできる限りのことをして前日を迎えた。やる気は充分だ。

しかし、本番当日、まさかの遅刻ギリギリだった。そのせいか、緊張は消えたが、複雑な心境で開会式を行った。一番心に残ったのは、3年生の劇だ。あんなに役になりきれるのがすごいと感動した。自分の役割は精一杯やったから悔いはないが、来年はもっとよりよいものを作りたいと思った。

(中略) この発表会で学んだことは2つある。1つ目は、相手をしっかりと見て助けることだ。今までは自分が終わればよいと思っていたが、助け合いが人生で大切なことを改めて感じた。2つ目は、発表会は何を発表する場なのか、ということだ。発表会とは、主に学校で学んだものを発表することが一般的だ。しかし、僕は団結力を発表する場なのではないか、と思った。団結力の大きさでは、少人数でもよいものが発表できる。だから、団結力を発揮するには、まず準備から頑張らなければならない。団結力は見る人を引きつける力がある、と昔聞いたことがある。学校という小さな社会で生きる自分の目標にしてあと2年半、過ごしてみようと思う。

私は、文林中学校での初めての学芸発表会でした。ですが、何度か小学校の時も発表を見たことがあり、あまり忙しくなさそうだと思っていました。しかし、実際に準備や発表、部活、実行委員などで、人数が少ないので一人一人が積極的に放課後も活動しているため、忙しくて大変でした。(中略)

私は、学芸発表会が始まる前はあまり緊張していなかったけれど、日に日に緊張が高まってきて今までやってきたことを生かせるか、仕事をやりきれぬかが、心配でした。しかし、友達や先輩の姿を見て、緊張がほぐれて私も頑張ろうと思うことができたし、目標も達成できたし、一人一人が輝くことができていたのでよかったです。

実行委員になって、私はよかったなと感じました。みんなをまとめて、協力し合ったり、話し合ったりすることで、自分にも力がついたかなと思います。だから次も色々な実行委員を積極的にやっていきたいです。そして、この学芸発表会で人数が少ないからこそできる団結や協力があることややりきったという達成感を得られたことが嬉しかったです。私は、無理だと何事もあきらめてしまうことがありましたが、この機会を通して、大変なことでも自分は乗り越えられるんだと思いました。これからは、最初からあきらめるのではなく、やれば自分だってできる、という気持ちを忘れずに前に進んでいきたいです。

最初はがんばろうとわくわくしていました。2週間前、放課後練習が始まって、帰りたくなっても我慢して練習しました。合唱では、大井君を中心にパートごとに練習して、全体でも合わせました。

はじめは、合わせるができなかつたので、家でユーチューブで何度も繰り返して聞き、覚えました。そうやって学校の練習でみんなの歌に合わせられるようになりました。みんなと合うとどンドン歌うことが楽しくなりました。そして早く沢山の人に聞いてほしいと思いました。歌っている間は緊張しましたが、終わった時には少しほっとして、うまく歌えたことがとても嬉しくなりました。みんなと一つのことをやり遂げるのがとても楽しく、またやりたいと思いました。ブース発表では、大きな声でみんなに伝えるように頑張って話しました。今回は原稿を見ながらでないとできなかつたので、次回は原稿を見ないで発表できるように練習したいです。僕たちの班の発表を見て、八ヶ岳に興味をもってくれる人がいるといいなと思いました。

(中略) みんなと協力して頑張ったので、一年一組の一員だと感じました。これからも何事にも全力で頑張ろうと思いました。来年の学芸発表会だけではなく、色々な行事も全力で頑張って、来年は先輩として頑張ります。

「革新と誇り 開ける！ 芸術の扉」 このスローガンを胸に僕は、文林学芸発表会に臨みました。合唱、八ヶ岳のブース発表、展示、演劇のスポットライトなど、様々な準備をしてきました。そして当日、今まで頑張って準備してきた努力の結晶を見せられる時だ！と思うはずですが、なぜかやる気が出てきませんでした。それどころか、早く学芸発表会を終わらせて休みたいと思っていました。

僕は、その気持ちのまま学芸発表会に臨んでしまいました。開会式はほとんど聞き流してしまいました。しかし、次の吹奏楽部と千駄木小学校ジュニアオーケストラ合同バンドの発表を聞いて少し考えが変わりました。一生懸命演奏し、学芸発表会を盛り上げようとしている様子を見て、これに応えるためにもっと盛り上げていこうと思いました。

(中略) 今回の学芸発表会で学んだことは2つあります。1つ目は、どんなに苦しくて緊張していても最後まで全力でやりきるということです。2つ目は、一人で何事もやるのではなく、声をかけ合ってみんなで協力してやるということです。この2つの学芸発表会で学んだことの中で、クラスの中に足りないものは、1つ目の「何事にも全力で取り組みやりきる」ということだと思います。

